

漁況予報 い わ し

第219号

【2020年5～6月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月は222トンで前年（7トン）および平年^{※1}（59トン）を大きく上回りました。4月は359トンで前年（616トン）を下回りましたが、平年（181トン）は上回りました。

まき網は、東京湾側は漁獲がなく相模湾側にて餌イワシとして散発的に漁獲がありました。

魚体は、両月とも被鱗体長^{※2}（以下同）16～17cm前後の中羽イワシが多くみられ、2019年生まれの1歳魚が主体であったと考えられます。

早期発生群（前年11～12月生まれ）のヒラゴ（7～11cm）が5月以降より見え始めてきています。

【カタクチイワシ】

主要定置網における3月のカタクチイワシ総漁獲量は6.2トンで、不漁であった前年（14トン）および平年（197トン）をさらに下回りました。4月の漁獲量は30トンで前年（15トン）は少々上回ったものの、平年（176トン）を大きく下回りました。

佐島地区（1ヶ統）のまき網は餌イワシとして散発的に漁獲がありました。

魚体は、8～11cmの未成魚～小型成魚主体となりました。

【シラス】

相模湾のシラス漁は3月11日に解禁となりました。漁期前調査の結果から不漁が心配された三浦半島西岸の各漁場でも、3月中は比較的好調な漁獲がありました（前年比1.6倍、平年比1.8倍）。漁獲の主体となったのはマイワシではなくカタクチイワシでした。その後、4月の上中旬には漁獲の中心だったカタクチシラスが成長してカエリとなって漁は細り、特に藤沢以東の漁場では、魚群がほとんど見られない日が増えました。一方、茅ヶ崎以西の各海域では特に4月後半以降好漁傾向を維持しました。標本船3隻の漁獲量から推定した4月の相模湾内の漁獲量は37トンで、前年比0.7、平年比0.6倍となりました。

3月は漁期前調査でとらえられなかったカタクチシラスの群れが広範囲の漁場に現れ、好漁につながりました。マシラスの来遊が少なかった原因は、3月中旬以降、黒潮大蛇行

が継続する中、北上流路が極端に西に偏っており、関東近海ではむしろ離岸しており、沖合からの黒潮系暖水の波及がほとんどない状況が続いていることが影響しているものと考えられます。水産技術センターは黒潮流路変動と漁場形成の関係解明に向けて取り組んでまいります。

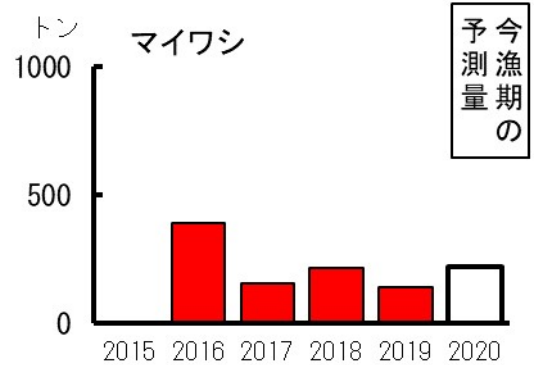
= 予 報 =

【マイワシ】

今漁期は、2020年生まれ及び2019年早期発生群の1歳魚のヒラゴ（10～12cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、0歳魚の資源尾数から、前年を上回る約222トンと予測されます。

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

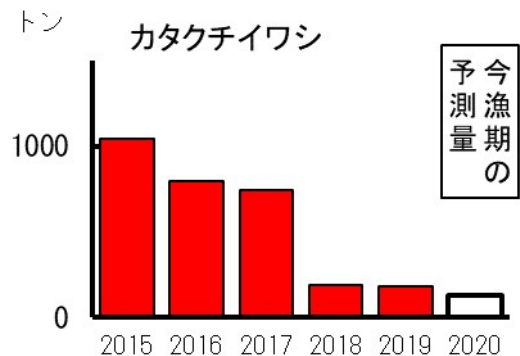


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、未成魚（7～8cm）及び小型成魚（9～10cm）が漁獲の主体となり、沖合海域から来遊する大型成魚（12～14cm）が僅かに混じるでしょう。

今漁期の漁獲量は、3～4月の県内主要定置網の漁獲量から、前年をやや下回る約132トンと予測されます。



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、4月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年をやや下回る約93トンと予測されます。

